

第2章 望ましい環境像

市民・事業者・市が目指す「昭島市の未来」を共有するため、望ましい環境像を掲げます。

【昭島市の望ましい環境像】

気候危機を乗り越え、美しい水と緑を将来の世代に

自然環境は…

多摩川や玉川上水、緑が連なる立川崖線や清らかな湧水など、豊かな水・緑が多様な生物を育み、まちの景観を特徴づけています。

水・緑とのふれあいを通して人々の連携・交流が盛んです。

生活環境は…

大気環境や音環境、水環境などの生活環境が確保され、健康で安全な生活を送っています。

環境活動は…

市民、事業者及び市がそれぞれ自らの課題として捉え、できるところから環境に配慮した生活を実践しています。

地域の環境保全に向けて環境教育・環境学習を担う人が活躍し、市民や事業者、市の協働による取組が活発になっています。

地球環境(緩和)は…

気候変動への危機感から、脱炭素社会に対する人々の意識が深まり、省エネルギー・資源循環の取組が定着し、再生可能エネルギーの利用が進んでいます。

地球環境(適応)は…

気候変動に伴う気象災害の拡大への備えが進むとともに、レジリエンス（都市全体の機能を速やかに回復する力）が強化されています。

本計画では、概ね令和32（2050）年頃の将来にこうなりたいというるべきゴールとして望ましい環境像を位置づけ、そこを起点に今から何をすべきかを導くバックキャスト¹の考え方で、基本目標や取組を設定しています。

1 バックキャストは、現状をベースとして実現可能性を踏まえた積み上げを行うのではなく、将来のあるべき姿から振り返り、現在すべきことを考える思考法です。

～将来を担う世代が、昭島市の未来について話し合いました～

令和2（2020）年11月、昭島市内及び近隣市の高校生など21名が参加する「昭島環境未来会議」が開催されました。

参加者は、昭島市環境審議会の会長で明星大学理工学部の亀井川教授による講演「都市と気候変動」を聞いた後に、自分たちが望んでいる未来の暮らし・社会などについて意見交換を行いました。

意見交換で出されたご意見・アイデアは、将来を担う世代の声として、本計画の望ましい環境像に反映しています。



気候変動への不安は？

- 熱中症等により多くの命を落としてしまう可能性がある
- マラリアやデング熱などの感染症が拡大してしまう
- ゲリラ豪雨や台風などによる大災害が増えると言われている
- 食料がなくなることにより紛争や戦争が起こることもあり得る
- 日本の四季がなくなってしまう
- 海面が上昇することで海に沈んでしまう国もある など

特に心配だと思うことは、「健康被害」、「自然災害」、「食料不足」

未来の暮らし・社会のイメージは？

- 服やペットボトルが100%リサイクルされるようになる
- 電気自動車が普及し、再生可能エネルギーが増えしていく
- 大企業が「再エネ」を導入し、使い捨てプラスチックを流通させないよう取り組んでいる
- 地球温暖化、気候変動を深刻に捉えている人が増えており解決に近づいている など

人々の意識が深まり、二酸化炭素(CO₂)の排出が少ない脱炭素社会が実現

未来の暮らし・社会、環境のためにすべきことは？

- 身近なことでも、ごみの分別や節電などできることはたくさんある
- 温暖化防止に熱心な企業の製品を選ぶ
- 自分自身がよりよい未来をつくる一員であることを自覚し、それを日々意識して、暖房の温度を下げるなどの小さなことから取り組む
- 一人ひとりが環境に対して意識を持ち行動することで、どれだけ環境への負荷が減るかなどを広めていきたい など

自分たちができる具体的な行動について提案